WOODY VALLEY MODEL
HARNESS MANUAL

PEAK 2

危険･警告	
1）	安全に正しくお使いになるために、ご使用前に必ずこの取り扱い説明書を最後までよくお読みになった上で、指示内容を守ってお使い下さい。
2）	本ハーネスはパラグライダー専用ハーネスです。その他の目的で使用しないでください。
3）	本ハーネスは改善等の為、予告なしに仕様・価格等を変更する場合があります。

（株）ＳＰＯＲＴＳ ＯＰＡ ＫＩＴＥ

東京：〒１０１－００５２東京都千代田区神田小川町３-２４-１５-３Ｆ
ＴＥＬ０３－３２９１－０８０２　ＦＡＸ０２０-４６６４-０４１７
Ｅ－ＭＡＩＬ：ｆｌｙ＠ｏｐａ．ｃｏ．ｊｐ
茨城：〒３１５－０１０１　茨城県石岡市大増１９００
ＴＥＬ０２９９－４４－３６４２　ＦＡＸ０２９９－４４－３９３９
Ｅ－ＭＡＩＬ：ｉｔａｊｉｋｉ＠ｏｐａ．ｃｏ．ｊｐ

はじめに

この度は、ＷＯＯＤＹ　ＶＡＬＬＹ　ＭＯＤＥＬハーネスをお買い上げいただきありがとうございます。
ピーク２ハーネスは、より簡単なコントロール性と、より高い安全性を確保しつつ、軽量素材やカーボンシートプレートの採用によって３．６ｋｇという軽量化を達成したハーネスです。体に負担をかけず、大きな体勢の変更も必要とせず、楽なフライト姿勢を保ったまま、十分なコントロール性能と、必要な場合の安定を生み出せるように設計されています。バックプロテクターには新開発スモールサイドバルブ・エアーバッグシステムを採用し、ＤＨＶテストで屈指の衝撃吸収性を確保しています。
なお、ハーネスを正しくお使いになるために使用上の注意、及び使用方法を正しく理解した上でご使用ください。ご不明な点はお買い上げの販売店様、または、スポーツオーパカイトまでご連絡ください。

使用上の注意

１）　このハーネスはパラグライダー専用ハーネスです。その他の目的には使用しないでください。
２）　本ハーネスの適正技能は、ＪＨＦの定めるＢ級以上の技能を有するフライヤーを基準とします。
３）　本ハーネスを初めて使用する場合は、地上で十分にシミュレーションとセッティングを行い、安定した大気のもとでフライトして下さい。

標準付属品など

１）　パラシュートトグルおよびレスキュー取付け用ゴムなど。
２）　ウッディーバレーオリジナルカラビナ
３）　カスタマー登録葉書（５年間補償の登録も兼ねておりますので、お手数ですが必ずご記入の上、ご返送下さい。）
４）　本説明書
５）　シリアル番号タグ（ハーネス収納スペース背中部分にあります。）

ハーネス保管・取り扱い

１）　保管場所は、高温多湿および直射日光の当たる場所を避けてください。
２）　ハーネスをつけたまま座ったり、重いものを乗せたりしないでください。
３）　汚れた場合は、ぬらしたタオル等で拭き取って下さい。汚れがひどい場合は、中性洗剤を水で薄めてつけ、柔らかいブラシ等で、叩き出すように落して下さい。
４）　海水に浸かった場合は、塩分を真水で洗い流し、陰干しして下さい。直射日光の下では乾かさないでください。
５）　ＰＧバックに収納時は、ハーネスの収納スペースのチャックを開けた状態で、ふたの部分を収納スペースに押し込め、エアーバッグ前部を曲げないように後方に引っ張るようにして収納してください。また、サイドバルブは変形しないよう注意して収納して下さい。
６）　パラシュートコンテナは紫外線や湿気からパラシュートを保護するように２重構造になっていますが、ウエイティングの際などはできるだけパラシュート面を上にして、日陰などに置いてください。

ハーネス保守点検

ハーネスに使用している素材は、すべて消耗品です。以下に示す保守点検を、必ず月に一

度は確実に行い、また、フライト前のプレフライトチェックも必ず実行して下さい。

１）　すべてのベルト・生地に傷・ほつれ・切れ・摩耗等がないか
２）　すべての金属・プロテクターに傷・緩み・錆・破損・ひび割れなどがないか
３）　外部・内部から見て縫製に切れ･縫いほつれ等がないか、その他にも異常が発見されたときには使用を中止して下さい。
４）　２年に一度はカラビナの買い替えをお勧めします。

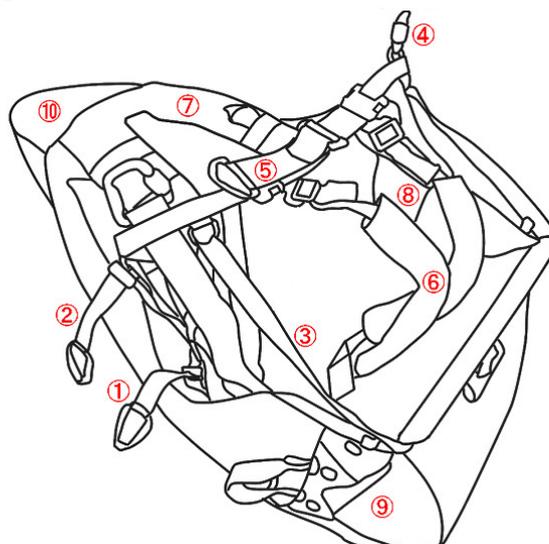
ハーネス５年間保証について

ウッディーバレーハーネスについて、弊社にカスタマー登録はがきをお送りいただいたお客様は、下記の条件で 5 年間保証を致します。

＜保証内容＞
最初の 1 年間については、過失、通常使用に関わらず、ハーネスの全ての破損について無償で修理、補修を致します。例えば、ハードランディングなどでハーネスが破損したような場合でも、無償で修理いたします。なお、修理不可能な破損に関しては、保証修理の対象外とさせていただきます。また、後の 4 年間については、弊社取扱説明書に従っての通常の使用における、縫製のほつれ、不具合について、無償で修理、補修を致します。尚、修理に際しての往復送料については、お客様負担とさせていただきます。
注意：通常の使用でも変形や消耗を起こしうる部品、プロテクション・成形用アクリル板（レキサン）・フットバー・カラビナ・シートプレートなどについては、上記保証の対象となりません。

※当社では全てのグライダー修理・ハーネス修理に対応できる設備を完備したメンテナンスセンターを持っております。また、グライダー販売からＪＨＦ公認インストラクターとしてのフライトのアドバイス、グライダー、ハーネスの修理まで、全て当社スタッフで対応できる、業界でも稀な完全サポート体制を敷いています。販売のアドバイスからアフターケアまで、安心して当社にお任せください。

各部の名称

１）シートアングル調整ベルト
２）サイド調整ベルト
３）レッグアングル調整ベルト
４）フックポイント
５）胸ベルト（ＧＥＴ　ＵＰ）
６）足ベルト
７）肩ベルト
８）アクセルプーリー
９）パラシュートコンテナ
10）収納スペース

ＧＥＴ　ＵＰ

ＷＯＯＤＹ　ＶＡＬＬＥＹ社　全モデルにこのＧＥＴＵＰが標準装備されています。
ＧＥＴＵＰではパイロットによるミスを最小限に抑える事とハーネスの脱着を容易にします。このＧＥＴＵＰでは僅か 2 箇所を止めるだけで、メインベルトを確実に止める事が出来ます。

Ｔバックル

ピーク２ハーネスは、オプション（受注生産）でＴバックルタイプの胸ベルトを選択可能です。Ｔバックルタイプでは、足ベルト２箇所と、胸ベルト２箇所（Ｔバックル）によってハーネスの脱着を行います。Ｔバックルの金具から伸びる赤いベルトによって、パイロットによるレッグベルトの装着ミスを防ぐ事が出来ます。

取り扱い方法・調整方法

サイド調整ベルト

あらかじめシミュレーターなどで調整を行って下さい。通常のスタンダードなハーネスと同じように視界が良好で、軽く後ろに腰掛けた程度での姿勢をお勧めします。
目安としては、リラックスした状態でハーネスに腰掛けた時、パイロットの肩くらいの位置でカラビナの高さを合わせて下さい。
絞め過ぎ、緩め過ぎはウエイトシフトのしやすさや、安定性に影響してきます。また、フライト中に姿勢を調整する場合は、必ず片方のベルトから調整を行って下さい。両方を同時に緩めると急激に後ろに倒れ込み全解放状態になり、非常に危険ですので十分注意して下さい。

シートアングル調整ベルト

シートを深くすれば、重心が下がるために安定します。ですが、ウエイトシフトは若干やりづらくなります。また、シートを浅くすれば、重心が高くなるために不安定になりますが、ウエイトシフトはやり易くなります。調整方法としては、シミュレーターでハーネスに腰掛け、全体重を自然にハーネスに乗せる様にして、両側のシート調整ベルトの金具を開放し、自然に下がった位置から、極端に浅くならない程度で、ご自分のフライトスタイルに合わせて調整して下さい。なお、腰とハーネスの間に隙間が出来ないように注意してください。

レッグアングル調整ベルト

シート調整ベルト、サイド調整ベルトと同様に、パイロットのフライト中の角度を調整します。主に腰から足にかけての角度の調整を行い、足下がりや、足上がりはこのベルトで調整しますが、あくまでも補助的な微調整と考えてください。全体的なアングルセッティングはサイド調整ベルトとシート調整ベルトで行います。
特に足下がりの状態で、腰が浮いているようなセッティングではレッグアングルベルトに必要以上のテンションが掛かり、プラスチックパーツを破損する事になりますので、十分にご注意ください。また、メインベルトがたるむような締めすぎも破損の原因、およびフライト中の不安定を生み出す事になり、非常に危険です。

足ベルト

足ベルトは、ハーネスをつけて立っている状態で窮屈過ぎず、フライト中にゆる過ぎない程度に調節してください。足ベルトを極端に締めても、セミクロスの効果はありませんので、必要以上に締めすぎないよう注意してください。
緩めすぎでは、テイクオフ直後に座りなおしが難しくなりますのでご注意下さい。

胸ベルト

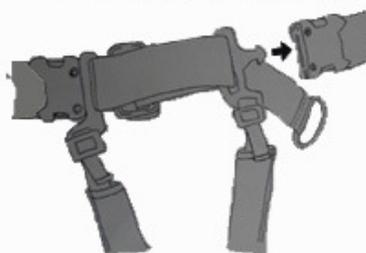
胸ベルトを締める事により安定性が高まりますが、ウエイトシフトが若干効きづらくなります。なお、ピーク２ハーネスはコントロール性がいい為、完全に絞めた状態でもウエイ

トシフトは容易に行えます。胸ベルトの調整は、カラビナの間隔がＤＨＶでのグライダーテスト時を大きく逸脱しないよう、４２ｃｍ前後で調整されることをお勧めします。

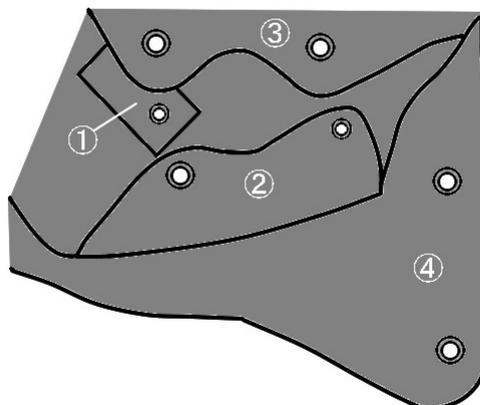
肩ベルト

腰掛けた状態で軽く張る、もしくは若干遊びがある程度での調整をお勧めします。
特にピーク２ハーネスの場合は、肩ベルトを絞め過ぎると体重移動がしづらくなり、また、長時間のフライトで肩に負担がかかりますので、ご注意下さい。なお、肩ベルトを締めると安定は増しますが、ウエイトシフトがしづらくなります。また、逆に緩めすぎるとウエイトシフトはやり易くなりますが、安定は悪くなります。
通常は軽く張った状態か、若干遊びがある状態で、大気が不安定になった時に、肩ベルトを、肩を張るような形で押し上げて、テンションを掛けると安定度が高まります。

ワンタッチバックル

カチッと音がするまで確実にはめ込んで下さい。衣服が挟まったり、砂などが詰まったりすると、確実に止まらない場合がありますので必ず確認して下さい。
なお、取外しの際には両脇のボッチを両方同時に押すと簡単にはずれます。

パラシュート

緊急パラシュートのタブに付属の赤色のレスキュー用トグルを取り付け、ハーネス側のブライダルとパラシュート側のブライダルを接続します。（この時に必ずお互いのブライダルのセンターを確認して下さい。センターがずれていると開傘時にブライダルがセンター側へ移動し、摩擦熱と張力でどちらかのブライダルが切れる可能性があります。レスキューとハーネスの接続には専用のレスキュージョイント金具等の使用をお勧めします。）次にトグル面を上にして①と②の小さい方の穴に付属のゴムを通して①、②、③、④の順でパラシュートをコンテナに収めセイフティーピンを止めて下さい。その後、トグルの両端を、取り付け部のネオプレーン部分に差し込んでください。

取り付け終了後は実際にシミュレーター等に下げてみて、パラシュートの位置・重さ・引き出し具合の確認や、トグルを握る練習をして下さい。実際に投げる動作までシミュレーションで行う事をお勧めします。（取り付け後、最低一回は必ず実際に引き出し、不具合がないか、また引き出しの際に引く方向・重さなどを確認下さい。）また、リパック時には常に上記のシミュレーションを行う事をおすすめします。

アクセルバー取り付け

取り付け方法

まず、ハーネス下部にあるアクセルライン用リングにラインを通し、ハーネス前部横にあるアクセルライン用ガイドから中に通し、ハーネス内側と外側の布地の間から、ハーネス座板部のサイドにあるアクセル用プーリーに通して、ライザーのアクセル取り付け部に取り付けて下さい。

フロントバラストバッグ（オプション）

フロントバラストバッグ（６リットル）がオプションで装備できます。給水の際には入り口を上に向けて給水して下さい。給水の途中で、ときどき空気を抜いて下さい。空気が入ると６リットル入らない場合があり、また、大量に空気が入るとフライト中に水が左右に移動するため、安定が悪くなる可能性があります。バラストの取り付けは、カラビナに通して使用する金属バックルで行います。また、目視しやすい位置にあるバラスト上部ベルクロ部分にバリオ、ＧＰＳ等を取り付けることができます。更に、バラスト上部ポケットには無線や携帯電話を入れることもできます。フライト後には、水を出したバラストバック内に、バリオ・ＧＰＳ等を収納することも可能です。

また、バラスト用インナーバッグを取り外す事によって小物入れとしても利用できます。

リラックスバーシステム（オプション）

セッティングおよび使用法

リラックスバーベルトをカラビナ位置から取る事によって、バーを踏み込んだ際に直接ライザーを固定し、安定させる事が可能となり、非常に高いハーネス安定を得る事が出来ます。

リラックスバーの調整は、足をほぼまっすぐに伸ばした状態で、（突っ張りすぎる状態だと長時間のフライトで足が疲れますのでご注意下さい。ひざの部分が少しだけ曲がるくらいがお勧めです。）腰がしっかりとハーネスに密着し、リラックスバーを踏み込んだ際にしっかりとテンションが掛かる様長さの調整をしてください。踏みこんだ際のリラックスバーベルトが、カラビナからほぼ一直線にバー部分まで行く形にセッティングするのがベストです。ベルトがガイド部でＶ字型になり、足が上がる場合は、踏み方が悪いかハーネスの基本的なセッティングミスです。

なお、踏み込んだ際にパイロットの重心がハーネス内で前後にずれる場合や、足を伸ばしてもテンションが掛からない場合は、グライダーを安定させる効果は期待できません。リラックスバーを踏み込むと、カラビナに連動しているベルトが引かれ、肩ベルトも張るためにハーネスがより安定し、更に揺れが少なくなります。グライド時や、センタリング中に旋回を安定させたい時などに使用してください。

また、旋回中に内側を強く踏む事によって、しっかりと体重移動している状態をキープできます。なお、常にベルトが張っている状態で使用すると、体重が入りづらくなる場合がありますのでご注意ください。

くれぐれもリラックスバーを使用した際に極端に体が寝たり、足が上がってしまったりするようなハーネスセッティングは避けてください。安定性が悪くなり、ヨーイングが出やすくなります。

取り付け方法

1. 座板前部のループベルト内に、リラックスバーのガイド用ベルトを通し

2. ベルトのループ部分に反対側のベルトを通して引っ張り固定します。

3. もう一方のガイド用ベルトのループ部に、リラックスバーのベルトを
通します。

4. なお、カラビナはハーネス外側（後部）に着脱部がくるようつけて下さい。

ハーネス調整の手順

最初にパラシュートを取り付け、シートアングル調整ベルト・サイドベルト・肩ベルト・足ベルト・胸ベルトの順で調整を行います。調整の仕方については、各項目を参考にしてください。また、シートポジションのセッティングを終えたところで、アクセルの調整を行います。現在ご使用のパラグライダーに合わせて調整して下さい。
なお、アクセルなどの調整はご自分のフライトスタイルにより微調整して下さい。

ピーク２ハーネスご使用のＰＯＩＮＴ

ピーク２ハーネスは、グライダーの動きをライザーにダイレクトに判りやすく伝える為、慣れていない方は常に揺れている様に感じられるかもしれませんが、基本的には非常に安定し、また、肩ベルトを少し張るという簡単な作業で、更にハーネスを安定させる事が出来る、体の動きが最小限で、アグレッシブな体重移動から安定したフライトまで、全てのコントロールが行えるハーネスです。
また、セッティングについても、ピーク２の標準の推奨されるセッティングを行っていただけば、極端に起きたり、寝たセッティングにしたりしなくても、標準の楽な体勢で十分にその性能が発揮できる設計をしています。そこでセッティングをされる際は、お勧めするセッティングから大きく逸脱しないようにご注意下さい。
なお、ピーク２ハーネスの場合、標準の推奨セッティングが極端に起こして乗るタイプのハーネスと違い、サイドベルトをきつく締めすぎ、上体を起こしすぎるとフックポイント（カラビナ位置）を基点に上体が高くなり、揺れが大きくなる原因となる事があります。なお、揺れに関してはシートの深さも影響してきますので、セッティングの際には注意が必要です。
シートアングルを浅く、サイドベルトをいっぱいに締めた状態では、特に揺れは大きくなります。どうしても上体を弊社お勧めの標準セッティングより起こしたいという場合には、シートアングルを深くしてください。
また、肩ベルトがゆる過ぎると、同じように上体が揺れ、ハーネスの安定が悪くなります。適切なセッティングをしてハーネスを着て立った状態で、肩がきつく感じる場合には若干足ベルトを緩めてください。
なお、肩ベルトについては、上空ではベルトに若干の遊びがある程度か、少し張っている程度でセッティングしてください。極端に起きた姿勢などにする為に、肩ベルトを張りすぎると、体重が入りづらくなると同時に、上記の様な理由でハーネスは不安定になりますし、長時間のフライトでは非常に疲れることにもなりますのでご注意下さい。
急激に体重を入れるなどハーネスを意図的に不安定にしたい場合は、上体をほんの少しだけ（５センチ～１０センチほど）起こすだけで、肩ベルトが緩み、ウエイトコントロールが楽に行えますし、安定を出す場合は少しだけ（同じく５センチ～１０センチほど）肩を張り、肩ベルトにテンションを与えるだけで十分に安定を出す事が出来ます。
昔のアップライト型（起きた体勢の）ハーネスに慣れた方は、荒れた時などにどうしても起き上がってしまわれる場合が多いようですが、最新のハーネスは、そのほとんどが安定を出す為には肩ベルトを張るシステムに変わってきています。ピーク２ハーネスも同じシステムですので、フライトの際は上記の安定の出し方などを十分認識し、体得した上で、安定した安全で楽しいフライトをしていただきますようお願いします。
なお、使用方法などご不明の点がありましたら、お気軽にお買い上げの販売店様、もしくは弊社にご連絡ください。

Woody Valley Model